

シンポジウム名	第6回日本大学先端バイオフィオーラム			
開催期間	平成22年2月23日			
開催場所	会場名：日本大学会館大講堂 開催地：東京千代田区九段南4-8-24			
参加者数	113名（内訳 学外者3名、学内者110名）			
連携学部	医、歯、松戸歯、薬、生物資源、理工、工、生産工、文理、総合科学			
メンバー構成	氏名	所属・資格	学位	役割
	山本樹生 松本宜明 安孫子宜光 加野浩一郎 尾股定夫 日秋俊彦 早川 建 永瀬浩喜 福田 昇	医学部・教授 薬学部・教授 松戸歯学部・教授 生物資源科学部・准教授 工学部・教授 生産工学部・教授 理工学部・教授 総合科学研究科・教授 総合科学研究科・准教授	博士（医学） 博士（薬学） 博士（歯学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（工学） 博士（工学） 博士（医学） 博士（医学）	総括、医学部担当 薬学部担当 歯学部担当 生物資源科学部担当 工学部担当 生産工学部担当 理工学部担当 総合科学研究科担当 事務企画
シンポジウム・学術講演会等の概要				
<p>会期：平成22年2月23日（火）</p> <p>会場：日本大学会館大講堂</p> <p>参加者：学内を中心に110名</p> <p>内容：ポスター掲示57題、この内口演20題</p> <p>学部別：生物資源17題、医学部12題、薬学部5題、工学部6題、理工学部4題、歯学部1題、松戸歯学部1題、生産工学部1題、文理学部1題、短期大学部2題、総合科学研究科7題</p> <p>分野別：ゲノム16題、物質・材料16題、薬剤・創薬10題、細胞・再生8題、プログラム：9:30</p> <p>代表幹事開会辞</p> <p>9:48-12:00 口演、12:00 ポスター討論、13:00-15:00 口演。</p> <p>15:30-17:00：ワークショップ「日本大学のバイオ研究の方向性」</p> <p>内容：6名の医学、歯学、生物資源科学、薬学、工学、N.研究の討論者で、各分野のバイオ研究の取り組みと問題点、国の科学技術研究、産学連携とイノベーションの方針に基づいて現在の日本大学のバイオ研究のあり方、学外及び国際的に日本大学のバイオ研究が勝抜く方策について討論。</p> <p>17:40：大講堂内で情報交換会</p>				

シンポジウム・学術講演会等が及ぼした効果

- 1) 医学部、薬学部、歯学部、松戸歯学部、生物資源科学部、理工学部、工学部、生産工学部、短期大学部、総合科学研究科の学内バイオ研究者が自分のバイオ研究、バイオテクノロジーを紹介、発表する事により、他学部バイオ研究内容の把握と先端的研究方法の認知出来、共同研究に発展出来る。抄録集では全ての演題の連絡先メールアドレスが記載されており、いつでも連絡できるようになっている。これにより、研究心が刺激され、学部を超えた融合・統合的研究体制の確立が出来、COE への情報提供が出来る。さらには高度研究機器の共有とそれによる研究費の効率化が出来るようになる効果がある。
- 2) さらにこのフォーラムから NUBIC を通してバイオシーズの公表と産学連携が推進される。
- 3) ワークショップでは各分野からバイオ研究の現状と日本大学を含めた問題点が指摘された。
- 4) N. 研究と日本大学のバイオ研究の今後の方向性として、研究成果「ナノ技術による低炭素健康社会への貢献」の考えが示されました。またナノバイオテクノロジーとして理工学部、工学部、文理学部として同じ方向性での研究の共有をする提案が出された。
- 5) さらに国の科学技術研究、産学連携とイノベーションの方針に基づいて現在の日本大学のバイオ研究のあり方として、研究の成果を積極的に日本大学産官学知財センター (NUBIC) にて知財化し、産学連携にて日本大学での研究成果を企業に移譲すると、利益相反が生まれるが、日本大学利益相反ポリシーに基づいて、産学連携研究を積極的に行う提言があった。

学外及び国際的に日本大学のバイオ研究が勝抜く方策については、日本大学でのリサーチオリエンテッド(研究指向型)の低さの是正の必要性の意見が出され、各分野の研究、技術を生かした core facility としての位置づけ、大学院での研究推進から研究者の育成の充実とバイオ系大学院の連携の必要性の提言があった。また現状維持ではなく研究事業は積極的に取り組み、世界的研究をもとに学外や国際的共同研究を行う提言があった。

当該研究及び研究グループの今後の見通し

- 1) このフォーラムで各学部、各分野のバイオ研究の紹介から、電子メールでの学際的共同研究が生じる。これにより日本大学全体のバイオ研究が大きな構成で出来、科学技術振興事業団 (JST) の CREST や文部科学省の COE などの外部大型研究助成金取得へ発展させる。
- 2) 日本大学先端バイオフォーラムを日本大学の定例行事として、年 1 回開催する。また日本大学先端バイオフォーラム事務局を本部に設置し、日本大のバイオ研究の推進と NUBIC との協力のもと企業との共同研究やシーズの移譲などの産学連携を通年的に行う。
- 3) N. 研究プロジェクトは日本大学学術戦略会議で「健やか未来の創造」のテーマに見合う研究として理工学部を中心として「ナノ物質を基盤とする光・量子技術の極限追求」のプロジェクトを選択したが、日本大学先端バイオフォーラムとの兼ね合いで、さらにその方向性としてナノバイオテクノロジーに発展出来るよう企画検討する。

4) 日本大学先端バイオフィォーラムを通して日本大学のバイオ研究の成果が一般社会の問題点である、地球温暖化や経済問題へ貢献出来るよう、また日本大学の「健やか未来の創造」につながる研究概念を形成する。具体的には医歯薬と工学、生物系の連携で「健康社会、低炭素社会の形成」を掲げたフォーラムに発展させる。

今回のフォーラムでの日本大学の研究の問題点は学内での共同研究と学際研究が物理的、地理的に難しく、UniversityではなくCollege化している事である。その解決として日本大学先端バイオフィォーラムを行っているが、さらに日本大学総合情報センターとの兼ね合いで、ITネットワークシステムを整備していく。つまり各研究所、研究者を10GBメモリーの転送の出来る日本大学内PCネットワーク化することにより、離れた研究室同士が密に通信でき、大型研究機器の研究技術員を通して遠隔から研究指示が出来るシステムの構築へと発展させる。